

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：

琉球大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：座間味 優

住 所：〒903-0215 沖縄県西原町上原 207

電話番号：098 - 895 - 1157

F A X：098 - 895 - 1419

E-mail：psy@w3.u-ryukyu.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(6) 人

■ 履歴書を Word または PDF の形式にて、E-mail にて提出すること。

電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出すること。

・E-mail の場合：psy@w3.u-ryukyu.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信。

その際の件名は、「専門医研修プログラムへの応募」とする。

・郵送の場合：〒903-0215 沖縄県西原町上原 207 宛にご自身で簡易書留にて郵送すること。
また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載する。

■ 採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の目的

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、優れた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

島嶼県である沖縄においては、いずれの診療科においても、プライマリー・ケアから難治例における先進医療に至るまで、全てを包含できる自立した医療圏として機能することが求められている。

基幹病院となる琉球大学病院精神科神経科は、沖縄県の精神科医療の最後の砦として多様な患者を受け入れており、県内の児童思春期例や摂食障害の入院症例が集積するほか、近年では、成人期発達障害の確定診断や治療抵抗性気分障害の寛解導入治療（修正型電気けいれん療法を含む）の役割を担う施設として、地域医療機関からの要請にも応えている。また、臨床薬理、神経生理、社会医学および臨床心理など多岐にわたる臨床研究が進められており、学会発表も含めて若手精神科医が参加しやすい環境を整えている。日本精神神経学会および日本臨床精神神経薬理学会の研修施設でもあるため、合理的な精神科薬物療法を行うための臨床精神薬理学を習得することが可能であり、力動的な精神療法から認知行動療法に至るまで多様な精神療法を学ぶことができる。専攻医は主に精神科病棟（40床）の入院患者の主治医として、研修すべき精神疾患をほぼ網羅した形で、入院から退院までの診療経過を経験できる。診療グループ全体で専攻医の研修をサポートし、指導医のスーパービジョンを受けながら、多職種によるチーム医療を経験する中で、鑑別診断能力や問題解決能力を養っていく。

連携施設として、独立行政法人国立病院機構琉球病院、医療法人社団志誠会平和病院、医療法人天仁会天久台病院、医療法人一灯の会沖縄中央病院、医療法人陽和会南山病院、医療法人タピック宮里病院、沖縄県立宮古病院があり、各施設の特色に応じて、専攻医が研修ローテーションを総合的に選択することが可能である。具体的には、離島医療を含めて地域の前線病院として行われている地域医療、精神科救急、精神科リハビリテーション、ストレスケア病棟および医療監察法病棟を実際に主治医として体験できるほか、認知症、アルコール依存症やてんかんの診療など臨床経験の幅を広げることが可能である。

また、岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門研修プログラム(岩手県)との「連携（地域研修）プログラム」を設定し、上記の沖縄の各機関での1年半の研修経験に加えて、岩手医科大学と提携し、救急医療における精神科医療や被災地域におけるメンタルヘルス推進活動を含んだ、岩手県での1年半の研修を行うプログラム募集枠（1名）がある。連携プログラムの管理および評価については琉球大学病院と岩手医科大学附属病院が協議しながら共同で行う。

さらに、2023年度より杏林大学医学部附属病院(東京都)、2024年度より国立精神・神経医療研究センター病院(東京都)、魚沼基幹病院(新潟県)を連携施設として追加した。当院を含め沖縄県で1年半、杏林大学医学部附属病院で1年半の研修を行う。同院の特色である認知行動療法や対人関係療法等の専門性の高い精神療法を学ぶことができる等、沖縄県内での研修のみでは提供が困難であった領域を補完することが可能となった。

専門医には、生物・心理・社会的な問題を包含した全人的診療を展開する能力が求められるとともに、生育・生活史から現病歴に至るまでの個人史を俯瞰したうえで治療において有益な関与ができるような人間学的な視点も必要とされる。本プログラムでは、単に疾患の知識や治療の技術に優れるばかりでなく、人々に安心感と自己効力感を与え、かつ、人のこころを動かす力を持った専門医の養成を目指している。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：41 人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1962	521
F1	968	307
F2	4258	1333
F3	2282	484
F4 F50	1238	142
F4 F7 F8 F9 F50	2443	252
F6	71	23
その他	397	41

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：琉球大学病院
- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：大屋 祐輔
- ・プログラム統括責任者氏名：高江洲 義和
- ・指導責任者氏名：高江洲 義和
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	185	28
F1	28	8
F2	66	53
F3	131	104
F4 F50	214	51
F4 F7 F8 F9 F50	277	80
F6	7	6
その他	27	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は600床を有する総合病院であり、40床の精神科病床（閉鎖病棟）を抱える。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっているが、成人の広汎性発達障害（F8）や思春期の摂食障害（F5）の症例も集積しやすく、各種認知症（F0）の鑑別診断、身体合併症治療、リエゾン・

コンサルテーション精神医学と併せて、精神科臨床の広い領域をカバーしている。臨床薬理学に立脚した合理的薬物療法やアップトゥデイトな精神療法に関するセミナーが行われているほか、神経画像や神経生理を用いた高度な診断を要する器質性精神障害については、診療科のセクションを越えた脳神経外科や神経内科との定期合同カンファレンスも開催している。

専攻医は医員（非常勤）の身分となるが、勤務は週休2日制で、休憩時間を除き1日8時間、1週間40時間を所定の労働時間とする。医学部・附属病院の事業所内には安全衛生委員会があり、産業保健師および産業医を置いており、職員に対する定期的な健康診断（年2回）が行われている。

B 研修連携施設

① 施設名：国立病院機構 琉球病院

- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：福治 康秀
- ・指導責任者氏名：久保彩子
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 326 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	181	116
F1	479	173
F2	579	268
F3	254	45
F4 F50	79	3
F4 F7 F8 F9 F50	1352	113
F6	22	0
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、416床（精神科病床326床、重度心身障害児・者病床90床）を有する精神科単科病院で、各種専門医療、地域精神医療に積極的に取り組んでおり、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。

専門医療としては、児童・思春期精神科（こどものこころの拠点病院）、依存症（地域における早期介入事業にも取り組んでいる）、治療抵抗性精神疾患治療（クロザピン・m-ECT）とその地域連携事業、認知症があり、各ライフステージに合わせた専門治療が可能である。また、医療観察法病棟を有し、精神鑑定も含め司法精神医学も取り組んでいる。精神科急性期・救急にも取り組み、訪問看護は年間8900件を超えており、地域の基幹病院として貢献して

いる。

様々な実践体験を通して臨床経験の幅を広げることができ、各種専門医療、包括的地域精神医療、精神科リハビリテーションなどの実践を含め、多様な研修を行うことができる。

② 施設名：医療法人一灯の会沖縄中央病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：久場 禎三
- ・指導責任者氏名：久場 禎三
- ・指導医人数：(6) 人
- ・精神科病床数：(239) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	455	114
F1	121	25
F2	854	145
F3	612	63
F4 F50	374	12
F4 F7 F8 F9 F50	223	9
F6	2	0
その他	(G40) 63	(G40) 1

（2019 年 1 月～12 月：実人数）

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、239 床を有する単科精神科病院であり、入院治療においては急性期治療病棟・認知症治療病棟・開放療養病棟・閉鎖療養病棟を有している。また、地域医療部門としては訪問看護・精神科デイケア・認知症デイケア・認知症グループホームを有している。

当院の特徴としては、従来型の統合失調症圏だけではなく、認知症・気分障害圏・神経症圏・成人の発達障害など幅広い疾患、症例を経験することが可能である。外来部門においては、気分障害に対する心理社会的治療も重点的に行なっており、近年は成人の発達障害に対する診断・治療（心理教育や集団精神療法）も開始しているため、心理社会的治療に対する医師としての関わり方についても研修可能である。

③ 施設名：医療法人天仁会 天久台病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：平良 直人
- ・指導責任者氏名：平良 直人
- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(3 3 3) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	252	38
F1	96	41
F2	708	304
F3	335	115
F4 F50	142	35
F4 F7 F8 F9 F50	71	21
F6	3	12
その他	170(内 G40=4)	29(内 G40=10)

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、333 床を有する精神科単科病院であり、精神科救急治療病棟 48 床、認知症疾患治療病棟 50 床、精神療養病棟 235 床（5 病棟）で構成されている。入院では統合失調症を中心に外来においては更に多彩な疾患、症例を経験することが可能である。クロザリルの使用が可能で難治性統合失調症に対応している。

特に、本院においては、てんかんについてはビデオ脳波計を設置し、てんかん専門医もいるため脳波読影も含め診断・治療・精神科合併症の管理などの必要事項を学ぶことができる。

就労訓練、デイケア・訪問看護を通して社会復帰などの具体的な活動についても実践体験が可能である。院外の関連施設として、クリニック、老人保健施設、小規模多機能施設、介護付き有料老人ホームがあり、地域包括ケアの現状や介護やリハビリテーションの実践も含めて、高齢化社会に対応した様な研修を行うことができる。

④ 施設名：医療法人社団志誠会平和病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：小渡 敬
- ・指導責任者氏名：小渡 敬
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 212 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	264	54
F1	66	13
F2	994	194
F3	390	55

F4 F50	430	16
F4 F7 F8 F9 F50	131	4
F6	22	4
その他	87	1

・ 施設
特徴 (扱う疾

設としての
患の特徴等)

当法人は 212 床の単科の精神科病院と、生活訓練施設や複数のグループホームからなる精神障害者の社会復帰施設群及び認知症専門棟を有する 140 床の老人保健施設から成り立っている。

当院では、精神科救急入院病棟を中心に統合失調症や気分障害、認知症の BPSD 等の治療に関して薬物療法を中心に行っている。一方、療養病床においては社会復帰施設群やデイケア、訪問看護等を活用し地域移行を行っている。急性期の治療と社会復帰に向けてのリハビリが当院の特徴である。

⑤ 施設名：医療法人陽和会 南山病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：譜久原 弘
- ・指導責任者氏名：譜久原 弘
- ・指導医人数（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 215 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F 0	238	53
F 1	77	21
F 2	546	130
F 3	257	44
F 4 F 5 0	114	16
F 4 F 7 F 8 F 9 F 5 0	163	8
F 6	12	1
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は民間単科精神科病院で、215 床の精神科病床を有する。そのうち 50 床は、精神科急性期治療病棟であり、県の精神科救急システムの輪番病院として地域の精神科救急に貢献している。また、認知症治療病棟を有し、認知症の診断・治療を積極的に行っている。

近年、不登校、ひきこもり、虐待など、若年層のこころの問題に社会的関心が高まりつつある中、気分障害（うつ病）、強迫性障害などを必要とする児童・思春期の精神疾患患者に対応するための治療を行っている。

被災地への最大の支援として「D P A T」を結成して、協力体制を備えているのと同様

に、「災害時支援中心病院」として、有事の際には地域の住民、他の精神科病院を救済する災害医療を行っている。

難治性の精神疾患に対して、クロザピンを用いた治療を行っている。グループホーム、就労支援事業所、相談支援センターを有しており、デイナイトケア、訪問看護とともに地域で生活する精神障害者を支えている。

以上のように、当院では地域精神科医療のすべてを学ぶことができる。

⑥施設名：宮里病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：川崎 俊彦
- ・指導責任者氏名：川崎 俊彦
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 167 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	344	115
F1	50	12
F2	377	179
F3	166	34
F4 F50	106	6
F4 F7 F8 F9 F50	151	9
F6	2	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴

沖縄県 北部医療圏の中核を担う精神科病院である。軽い心の不調から重度の精神障害までに対応した精神科医療、認知症における専門医療と介護サービス、障害の克服を目指すリハビリテーション等、総合的な医療を展開している。思春期・青年期から高齢者まで、精神科領域における幅広い領域をカバーしており、措置入院、医療保護入院など非自発入院の症例も多い。

認知症を中心に地域との連携に力を入れており、院内に認知症の人と家族の会沖縄県支部北部地区事務局がある。家族や地域住民に対する疾病教育や啓蒙活動、家族・地域包括支援センター・他施設のケアマネージャーなどが参加する定例会を開催しており、家族会の活動を通して、地域医療の中で精神科が果たすべき役割について考える機会を得ることができる。

また、都市部と比べ医療資源の少ない環境にある患者さま（大宜味村、国頭村、離島等の過疎地域）の家庭復帰や社会復帰等、家族や地域のニーズに対応した医療とケアについて学ぶことができるほか、内科医・リハビリテーション科医が配置された回復期リハビリテーション病棟・介護療養病棟にて、精神疾患を有した患者さまの身体疾患治療やリハビリテーション医療に伴うリエゾン・コンサルテーション精神医学についても多くの症例を経験できる。

併設施設として、応急指定、精神科救急輪番の精神科急性期治療病棟（閉鎖24床）、精神療

養病床（開放36床、閉鎖57床）、認知症治療病棟（閉鎖50床）、回復期リハビリテーション病棟（44床）、介護療養病棟（28床）、精神科作業療法、精神科デイケア、重度認知症患者デイケア、訪問看護室、通所介護・訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、在宅介護 支援センター、精神共同住宅がある。

⑦ 施設名：沖縄県立宮古病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：本永 英治
- ・指導責任者氏名：山田 豪人
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 45 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	43	3
F1	51	14
F2	134	60
F3	137	24
F4 F50	166	3
F4 F7 F8 F9 F50	75	8
F6	1	0
その他	3239	6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

面接技術、診断学、電気治療や訪問診療を含む治療学を学び、精神科救急、コンサルテーションリエゾンを経験し、精神保健福祉法の運用にも習熟します。

当科の診療体制は患者ごとに担当医を定め、外来治療・入院治療とも一貫して担当しつつ、カンファレンスなどを通じて常に指導医を含む全ての精神科医師で情報を共有し、訪問診療や夜間および休日の対応は、オンコール当番の医師がすべて一次対応を行うという、担当医制とグループ診療制のそれぞれ良いところを採用しています。これにより、治療関係と治療の責任は明確にしつつ、全ての精神科医師で学び合い助け合ってより良い治療を目指す体制を実現しています。

また、先輩医師から指導監督を受ける立場でありながらも、初期研修医がいれば指導する立場も経験します。

⑧ 施設名：杏林大学医学部附属病院

- ・施設形態：私立大学附属病院
- ・院長名：近藤 晴彦

- ・プログラム統括責任者氏名：渡邊 衡一郎
- ・指導責任者氏名：渡邊 衡一郎
- ・指導医人数：（ 6 ） 人
- ・精神科病床数：（ 32 ） 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	182	20
F1	53	10
F2	850	67
F3	1331	141
F4 F50	644	60
F4 F7 F8 F9 F50	20	12
F6	89	30
その他	312	20

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

1153 床（令和 4 年 3 月現在）を有する大学病院であり、精神神経科としての開放病棟を 32 床（睡眠専門病床 2 床を含む）有している。重症度は軽症から重症まで幅広い患者が外来や入院で治療を受けており、気分障害や統合失調症の割合が多い。他にも睡眠障害や器質症状性精神障害、摂食障害、身体合併症（周産期を含む）の患者、そして思春期の患者など多様な精神疾患の患者が受診しており、他科との連携も図りながら治療に当たっている。院内でのリエゾン・コンサルテーションや緩和ケア医療への参画も積極的に行っており、加えて地域のクリニックや病院からの依頼を定期的に受けている。また、修正型電気けいれん療法やクロザピン治療を実施し、難治性の気分障害患者に対する包括的アプローチも行っている。さらに専門医療においては、日本睡眠学会および日本臨床精神神経薬理学会、日本総合病院精神医学会の認定研修施設であり、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究：Effectiveness of GUIDeline for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE) のうつ病事務局も務めている。また精神療法にも力を入れており、認知行動療法や対人関係療法においてはそれぞれの専門家が所属しているため、定期的な指導や講義を行っている。精神科作業療法としては、入院患者だけでなく外来患者に対しても多角的な評価と介入を行い、当事者のパーソナルリカバリーへの援助を目指している。

- ⑨ 施設名：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院
- ・施設形態：国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）
 - ・院長名：阿部康二
 - ・指導責任者氏名：鬼頭伸輔
 - ・指導医人数：（ 21 ）人
 - ・精神科病床数：（ 191 ）床
 - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	410	55
F1	290	61
F2	1402	285
F3	1701	225
F4 F50	1555	138
F7 F8 F9	700	77
F6	138	14
その他		18

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）病院（一般精神が閉鎖病棟 82 床、開放病棟 41 床の計 123 床、心神喪失者等医療観察法 68 床、計 191 床）は精神疾患、神経疾患、筋疾患及び知的障害その他の発達の障害に特化した国立高度専門医療研究センターの一つである。気分障害、統合失調症、認知症、依存症、てんかん、睡眠障害、反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）、電気けいれん療法（ECT）の専門外来があり専門家による高度な指導を受けながら貴重な症例を経験できる。治療はクロザピンを含む薬物療法、認知行動療法、集団精神療法、作業療法、rTMS、ECT などを中心に多職種チーム医療を提供している。院内には脳波（長時間ビデオモニタリング、睡眠ポリソムノグラフィーを含む）・CT・MRI・核医学検査（SPECT, PET）・光トポグラフィー・脳磁図など高度医療機器が整備され、これらを用いて診断を行うとともに、読影について学習できる。また、NCNP 病院は全国で初めて医療観察法病棟を設置し、唯一身体合併症に対応した病床を有している。医療観察法病棟では長期的な視点に立った多職種チームによる専門治療を学び、司法精神医学を専門とすることを希望する者は本研修コース終了後専門領域に進むことができる。院内には脳神経内科、総合内科、脳神経外科、小児神経科、外科、循環器内科、消化器内科、整形外科があり、身体合併症患者にも対応しており、他科の治療を受けている患者の精神症状に対するリエゾン・コンサルテーションも習得できる。病棟カンファレンス、症例検討会、文献抄読会に参加し、症例への理解を深めるとともに、治療関係を含めた精神療法的関与、薬物治療等について学習する。認知行動療法に関しては積極的に実践・教育を行っており、センター内の認知行動療法センタース

スタッフによる講義、スーパービジョンを受けることができる。集団精神療法、作業療法、デイケア、訪問看護、就労支援、復職支援プログラム等により、多職種医療連携、精神科リハビリテーションなどの技術を習得する。併設されている研究所と協同での臨床研究が数多く行われており、臨床研究に関するセミナーを受講し、上級医の指導のもと研究協力者として参加し、学会発表、論文発表を行うことができる。センター内で実施されている臨床研究に指導のもと研究協力者として参加することも可能である。

⑩ 施設名：新潟大学 地域医療教育センター 魚沼基幹病院

- ・施設形態：
- ・院長名：鈴木榮一
- ・指導責任者氏名：渡部雄一郎
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

【研修目標】

精神科専門医として精神科領域における幅広い知識・技能・態度を修得する。

【研修内容】

- ① 患者及び家族との面接
- ② 疾患の概念と病態の理解
- ③ 診断（DSM-5 および ICD-10）と治療計画
- ④ 補助検査法（脳画像検査、脳波、血液・生化学検査、心理検査など）
- ⑤ 薬物療法・修正型電気痙攣療法
- ⑥ 精神療法
- ⑦ 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、および地域精神医療・保健・福祉
- ⑧ 精神科救急
- ⑨ リエゾン・コンサルテーション精神医学
- ⑩ 法と精神医学
- ⑪ 医の倫理（人権の尊重とインフォームドコンセント）
- ⑫ 安全管理

【経験可能な症例】

＜疾患別＞

- ①統合失調症、②気分（感情）障害、③神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害、④児童・思春期精神障害、⑤精神作用物質使用による精神および行動の障害、⑥症状性を含む器質性精神障害、⑦成人のパーソナリティおよび行動の障害、⑧睡眠障害

＜治療場面別＞

- ①救急、②行動制限、③地域医療、④合併症、コンサルテーション・リエゾン

<治療形態別>

①入院治療（任意入院、医療保護入院、措置入院）、②外来治療

【研修方法】

当院は新潟県魚沼地域の医療再編に伴って 2015 年 6 月に開院した新しい病院であり、地域医療と高度医療の両立を使命としている。許可病床 454 床のうち精神病床は 50 床（閉鎖）である。地域医療部内に精神医療支援科が設置され、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、事務員が所属し、医師と協働で精神科チーム医療を実践している。

当科では、精神疾患と身体疾患の治療が同時に必要な患者の治療や修正型電気けいれん療法といった総合病院精神科としての治療場面を経験できるとともに、精神科救急、コンサルテーション・リエゾン、精神科デイ・ケアなど幅広い精神科臨床の経験を積むことができる。外来は初診を週に 1～2 回、再診を週に 1 回担当し、入院した際も引き続き主治医を務め、症例に一貫して関われる体制を敷いている。すべての外来初診患者および入院患者を翌日にプレゼンテーションし、診断や治療方針の確認を行っている。さらに月に 2 回、入院中の全症例について検討した後に、指導責任者が回診を実施している。これらの指導を通じて、精神科専門医として求められる知識・技能・態度を身につけることができる。

⑪『岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門研修プログラム』との連携プログラム

琉球大学医学部附属病院と岩手医科大学附属病院が連携し、両プログラムの連携施設を含めて、各 1 年半ずつの専門研修を行う。岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門研修プログラムにおいては、「救急医療における精神科医療」や「被災地域におけるメンタルヘルス推進活動」を含んだプログラムを経験できる。

なお、『岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門研修プログラム』における連携施設および研修内容については、日本精神神経学会 HP 上よりプログラムの PDF ファイルがダウンロード可能であるため参照されたい。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

1 年目： 主として基幹病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、神経症性障害、児童思春期精神障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、支持・共感能力を醸成し、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法に関しては、認知行動療法や力動的な精神療法のほか、マインドフルネス認知療法、アクセプタンス・コミットメント・セラピーなど新しい流れについても、カンファレンス、セミナーを通して学ぶ。薬物療法に関しては、臨床精神薬理学の知識に裏付けられた合理的な精神科薬物療法を習得する。また、年度内に学会への参加や発表などの学術活動に触れる機会を持つ。

2 年目： 連携病院を中心に、指導医の指導を受けつつ治療者としての自立を目指し、面接技法をより深化させ、診断と治療計画の能力の充実に図り、薬物療法の技法をさらに磨き、認知行動療法と力動的な精神療法の臨床応用を体得する。地域医療や精神科救急に従事

して実践的な対応を習得し、司法精神医学や災害精神医学についても学ぶ。連携病院の特色により、ストレスケア病棟、医療監察法病棟、アルコール依存症やてんかんの診療を経験し、多職種によるチーム医療や心理社会療法の実践経験を積み、精神保健福祉法および地域資源や制度の活用についても習熟する。また、症例報告や臨床研究を学会等で発表する。

3年目： 基本的に指導医から自立して診療できるようにする。基幹病院および連携病院の中から、さらに経験を充実させたい領域を選び、専攻医の志向を考慮して研修病院を選択する。例えば、1) 認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に、より深める形で実践経験を積む、2) 地域包括ケアの観点から、心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療についてより能動的に展開する、3) 児童・思春期精神障害や成人広汎性発達障害の適応支援など、より専門性の高い診療に参画する、などの選択がある。また、可能であれば、学会発表のみならず症例報告や臨床研究について論文執筆を行う。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに安全管理、感染対策、臨床倫理に関する研修会が実施される。コンサルテーション・リエゾンを通して、全人的な観点からの診療に参画して、医師としての責任や社会性、倫理観について学び、包括的地域ケアの実践から、生活者としての患者および社会との関わりについても幅広い視野を持つ。

① 学問的姿勢

すべての研修期間を通じて受け持った症例を院内の症例検討会等で発表・報告できることを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなど、主体的に学ぶ姿勢を心がける。その中で、特に興味ある症例や関心の深い臨床活動については、学会等での発表や学術誌などへの投稿を進め、学術活動を通じてより自身の臨床能力が深化するように努める。

② コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシー（コミュニケーション能力、リーダーシップと協調性、マネジメント能力、論理性と説明能力、倫理観と社会性）の習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指し、精神科医としての確固としたアイデンティティを形成する。

③ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設または連携施設において、症例報告や基礎・臨床研究を通じた学術活動に参画し、その成果を学会発表や論文執筆の形で公表する。それらの経験を通して、学術的視点を有する専門医としての資質を身に付けるとともに、精神医学の分野に新しい知見をもたらすことでの貢献を行う。

④ 自己学習

基幹病院である琉球大学病院においてはPubmedおよび医学中央雑誌のオンライン契約を結んでおり、専攻医が自ら文献検索を行い必要な医学情報を取り寄せ学習することが出来る。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院（琉球大学病院）をローテートし、精神科医としての全般的かつ基本的な知識を身につける。2年目には国立病院機構琉球病院（アルコール依存や児童思春期症例の診療および医療監察法病棟の経験が可能）、3年目には医療法人社団至誠会平和病院（包括的地域ケアの実践やストレスケア病棟の経験が可能）、医療法人天仁会天久台病院（てんかん・認知症の診療実践およびスーパー救急病棟の経験が可能）、医療法人一灯の会沖縄中央病院（ストレス関連障害の診療および成人広汎性発達障害の集団療法およびデイケア）の中からいずれかの研修先を選択する、といったローテートを基本とするが、個人の意欲や意向に応じて、ローテーションの順序や研修期間（例えば、より多くの研修先を選択する上で半年間のローテーションを組み合わせる）および専門研修の深化を図るうえでの基幹病院における再研修、などについても、研修プログラム管理委員会にてフレキシブルな検討が可能である。

また、岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門研修プログラムとの「連携（地域研修）プログラム」を設定し、上記の沖縄の各機関を1年半経験した後に、岩手医科大学と提携し、救急医療における精神科医療や被災地域におけるメンタルヘルス推進活動を含んだ、岩手県での1年半の研修を行うプログラム募集枠（1名）がある。連携プログラムの管理および評価については琉球大学医学部附属病院と岩手医科大学附属病院が協議しながら共同で行う。

主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

5) 研修の週間・年間計画

別紙2-2および2-3を参照。

4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会
- 委員長（医師）： 高江洲 義和（琉球大学病院）

- 医師： 久保 彩子（国立病院機構琉球病院）
- 医師： 小渡 敬 （医療法人社団志誠会平和病院）
- 医師： 平良 直人（医療法人天仁会天久台病院）
- 医師： 久場 禎三（医療法人一灯の会沖縄中央病院）
- 医師： 譜久原 弘 （医療法人陽和会南山病院）
- 医師： 川崎 俊彦（医療法人タピック宮里病院）
- 医師： 山田 豪人 （沖縄県立宮古病院）
- 医師： 大塚耕太郎（岩手医科大学附属病院）
- 医師： 渡邊衡一郎（杏林大学医学部附属病院）
- 医師： 坪井貴嗣（杏林大学医学部附属病院）
- 医師： 松原智広（岩手県立南光病院）
- 医師： 伊藤欣二（平和台病院）
- 医師： 智田文徳（未来の風せいわ病院）
- 医師： 及川暁（宮古山口病院）
- 医師： 長岡重之（北リアス病院）
- 医師： 川村智（三陸病院）
- 医師： 地土井健太郎（岩手県立一戸病院）
- 医師： 小泉幸子（慈雲堂病院）
- 医師： 鬼頭信輔（国立精神・神経医療研究センター）
- 医師： 野田隆政（国立精神・神経医療研究センター）
- 医師： 渡部雄一郎（魚沼基幹病院）
- 事務局（医師）： 座間味 優（琉球大学病院）
- 看護師：大城 真須美（琉球大学病院）
- 精神保健福祉士：小角みちよ（琉球大学病院）

・プログラム統括責任者

高江洲 義和

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

琉球大学病院： 高江洲 義和

国立病院機構琉球病院： 久保 彩子

医療法人社団志誠会平和病院：小渡 敬

医療法人天仁会天久台病院： 平良 直人

医療法人一灯の会沖縄中央病院：久場 禎三

医療法人陽和会南山病院： 譜久原 弘
医療法人タピック宮里病院： 川崎 俊彦
沖縄県立宮古病院：山田 豪人
岩手医科大学附属病院：大塚耕太郎
杏林大学医学部附属病院：渡邊衡一郎
国立精神・神経医療センター：鬼頭 信輔
魚沼基幹病院：渡部 雄一郎

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月毎に、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

琉球大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

1) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

2) プログラムの改善・改良

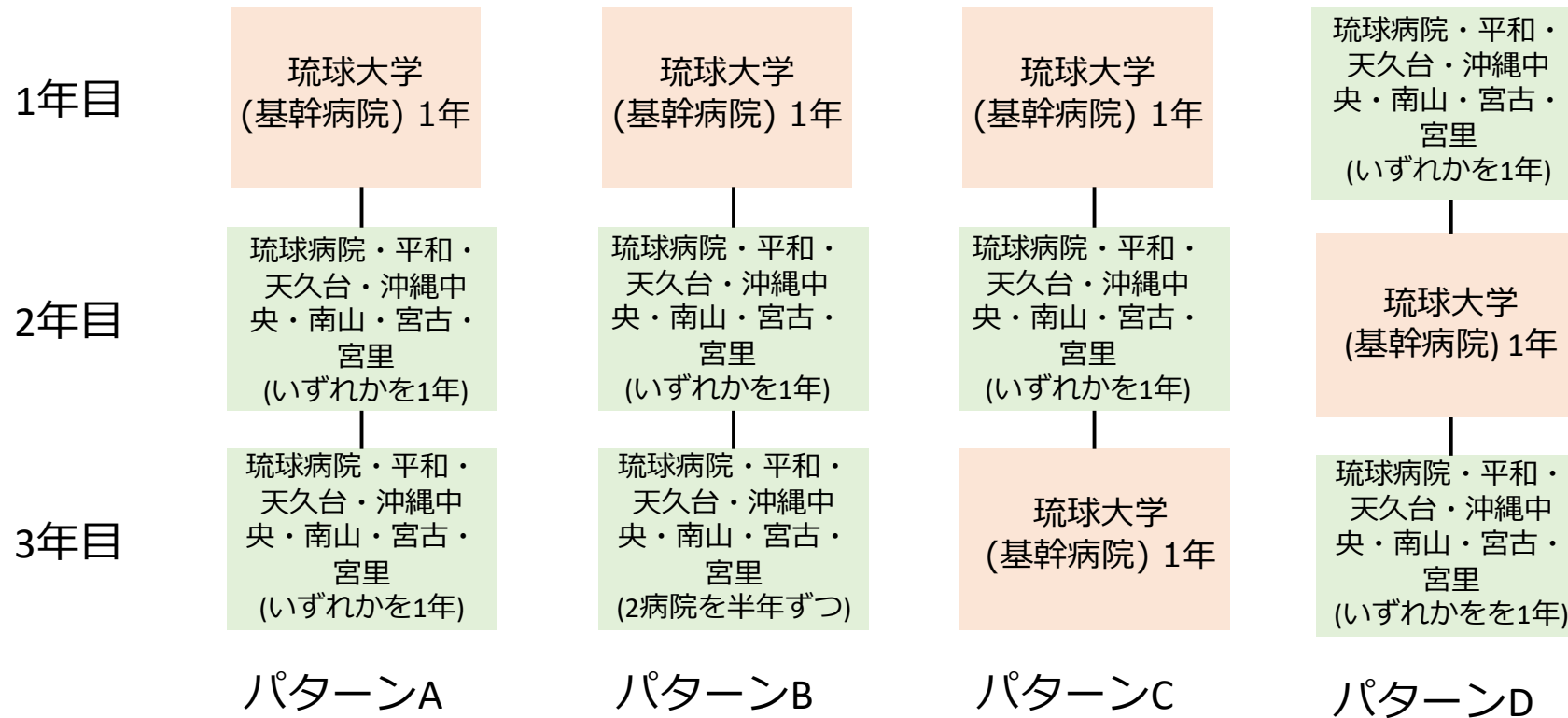
基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

3) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

別紙 1 ローテーションの例

沖縄県内ローテーション



※連携施設1ヶ所につき、**連続した3ヶ月以上**の在籍をした研修を行う。
 ※基幹病院および公立・私立単科精神病院を軸に、専攻医のニーズに応じて
 多様な研修パターンを用意可能である。

パターンE

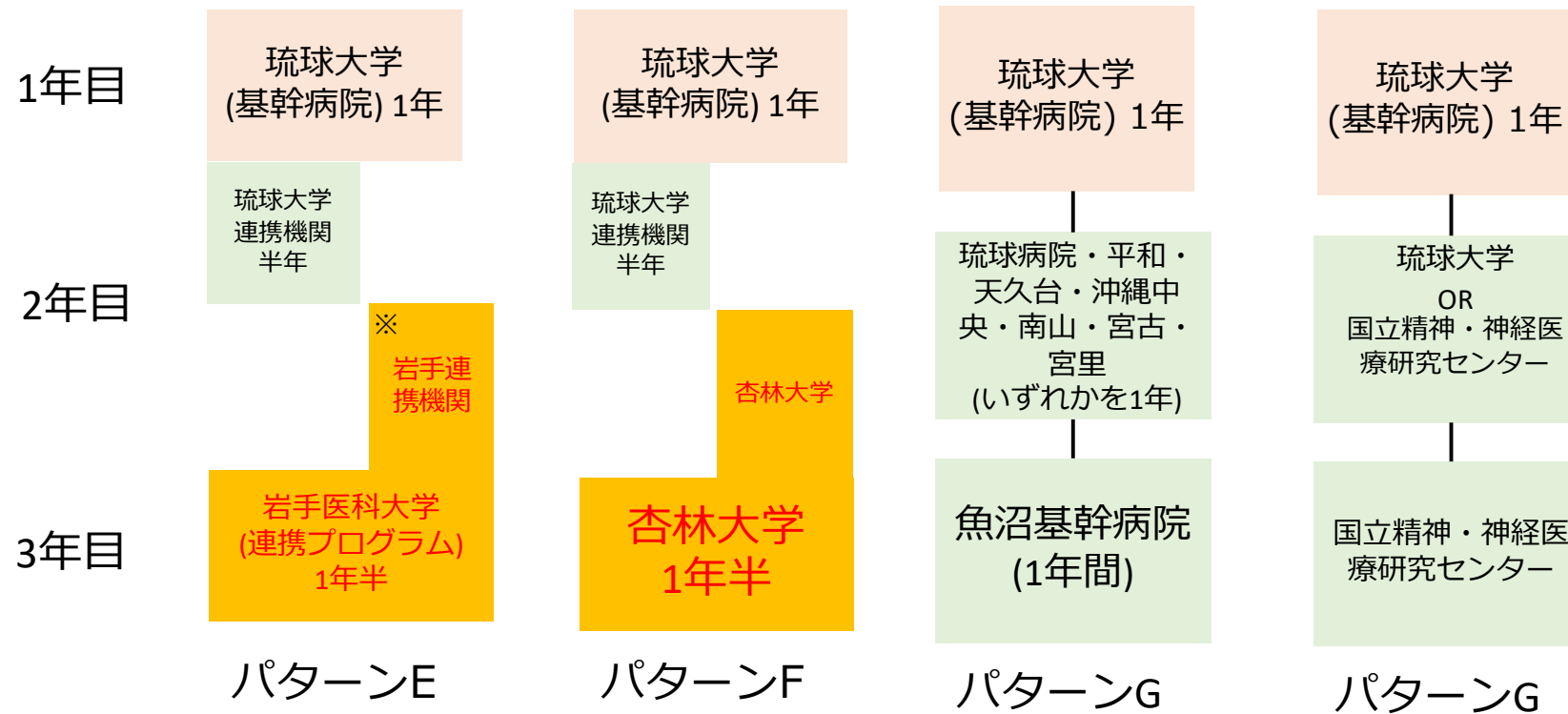
パターンF

パターンG

別紙1 ローテーションの例

紙 1 ローテーションの例

沖縄県-県外ローテーション



※連携施設1ヶ所につき、**連続した3ヶ月以上**の在籍をした研修を行う。
 ※基幹病院および公立・私立単科精神病院を軸に、専攻医のニーズに応じて多様な研修パターンを用意可能である。

専攻医の週間スケジュール (琉球大学病院)

	月	火	水	木	金	土	日
8:30	グループ回診 グループカンファ	一般 外 来	新患カンファ 総回診 グループカンファ	新患 補 助	緊急対応 他科往診 ECT	休 み	休 み
12:00							
13:00	病 棟	ン 他科 リエ ゾ	医局会 多職種カンファ 症例検討 or 抄読会	ン 他科 リエ ゾ	病 棟		
17:15		病 棟	病 棟	病 棟			
	脳・精神 合同カンフ (1/月)		専攻医向け レクチャー		リサーチ ミーティング		

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

専攻医の年間スケジュール (琉球大学病院)

4 月	オリエンテーション、専攻医 1 年目研修開始、専攻医 2・3 年目前年研修報告書提出、指導医の指導実績報告書提出 入院患者受け持ち、新患症例カンファレンス（毎週）、診療グループ・ミーティング（毎週）、総回診（毎週）
5 月	院内症例検討会発表（毎月専攻医 1 名）、院内抄読会発表（毎月専攻医 1 名）、県内精神科研究会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7 月	日本うつ病学会参加（任意）
8 月	九州地区 11 大学合同研修会
9 月	日本生物学的精神医学会参加（任意）
10 月	一般外来担当 専攻医 1・2・3 年目研修中間報告書提出 日本児童青年医学会参加（任意）、日本認知・行動療法学会参加（任意）、日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
11 月	九州精神神経学会参加・演題発表
12 月	研修プログラム管理委員会開催
1 月	研修症例レポート作成、研修症例口頭試問実施（2 例） 児童思春期外来参加（週 1、任意）
2 月	沖縄精神神経学会参加・演題発表
3 月	専攻医 1・2・3 年目研修報告書、研修プログラム評価報告書の作成

年間スケジュール 国立病院機構 琉球病院

4 月	新入職員オリエンテーション
5 月	地域職員アルコール研修会 CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修会
6 月	日本精神神経学会 日本司法精神医学会
7 月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム
8 月	児童・思春期のアディクション研修会
9 月	CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修会
10 月	アルコール・薬物依存関連学会
11 月	CRAFT 研修会
12 月	沖縄県 DPAT 研修会
1 月	ブリーフインターベンション・HAPPY プログラム研修会
2 月	沖縄精神神経学会
3 月	九州地区重症心身障害研究会

週間スケジュール 国立病院機構 琉球病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00		病床管理ミーティング	医局会		
9:00-12:00	新患陪席 外来業務	クロザピン治療陪席	病棟業務	新患陪席 外来業務	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	医療観察法治療評価 会議	病棟業務	病棟業務	国立病院機構精神 医学講義
16:00-17:15	院内クルズス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
18:00-20:00				症例検討会	

沖縄中央病院 週間研修スケジュール

	月	火	水	木	金
8:45-9:00	病院ミーティング	医局ミーティング	病院ミーティング	病院ミーティング	病院ミーティング
9:00-12:00	外来業務	認知行動療法	成人発達障害 デイケア	EMDR	外来業務
13:00-16:00	病棟業務	認知行動療法	成人発達障害デイ ケア	集団精神療法ミー ティング	病棟業務
16:00-17:30	病棟業務 診断書作成	病棟業務 診断書作成	病棟業務 新患カンファレン ス	病棟業務 診断書作成	病棟業務 診断書作成
	週 1 回程度の当直				

沖縄中央病院 年間研修スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	日本自殺予防学会参加（任意）
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	
8 月	
9 月	院内研究発表
10 月	
11 月	
12 月	研修プログラム委員会開催
1 月	
2 月	沖縄精神神経学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書作成

専攻医研修週間プログラム（平和病院）

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	外来業務	病棟回診 病棟カンファレンス	日当直 (月 1～2 回)	病棟回診	デイケア診察 病棟業務
午後	外来業務 チーム医療会議(月 に 1 回)	病棟業務	病棟回診		外来業務	リハビリシステム連絡会(月 に 1 回) 病院精神医療研修会 (月に 1 回) 適宜、症例検討会
17 時以 降	平日当直 月 4～5 回程度					

研修年間プログラム（平和病院）

4 月		
5 月		
6 月	志誠会医学会での発表	日本精神神経学会学術総会参加
7 月		
8 月	盛夏祭への参加	
9 月		
10 月	敬老会への参加	日本精神科救急学会学術総会参加
11 月		
12 月		
1 月		
2 月		沖縄精神神経学会参加
3 月		

天久台病院 専攻医研修週間プログラム

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	集合教育					休み	
9:00	デイケア、 デイナイトケア	クロザピン研修 (CPMS の 実際)	てんかん研 修 (外来・脳波・ 講義など)	高齢者関連 研修	物忘れ外来		
12:30	昼食	昼食	昼食	昼食	医局会		
13:30	外来 (新患・再来)	精神療養病棟	精神科救急 病棟	認知症治療 病棟	精神療養病棟		
17:00	週 1 回程度の当直業務						

天久台病院 専攻医研修年間プログラム

	毎月開催	年数回開催	参加を推奨するもの
4 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	薬事審議会	
5 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		
6 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		日本精神神経学会学術総会
7 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	家族教室	てんかん研究会、再発予防研究会
8 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	薬事審議会	
9 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		
10 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		日本てんかん学会、全日本病院学会
11 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	家族教室	精神保健福祉普及月間、RCP (Ryukyu Clinical Psychiatry) 研究会
12 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	薬事審議会	
1 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		
2 月	行動制限最小化委員会、感染症対策		沖縄精神神経学会
3 月	行動制限最小化委員会、感染症対策	家族教室	天仁会研究発表会、日本不安症学会学術大会

南山病院 専攻医週間研修スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟 業務	外来 業務	病棟 回診	デイ ケア	病棟 業務	休み	
午後	外来 業務	病棟 業務	病棟 回診	デイナイトケア	外来 業務		
17 時 以降	平日当直月 4～5 回程度						

南山病院 専攻医研修年間プログラム

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	南山病院院内研究発表会
9 月	
10 月	日本精神科救急学会学術総会参加
11 月	沖縄県精神保健福祉普及大会参加
12 月	日本児童青年精神医学会総会 沖縄県 DPAT 研修会

宮里病院 専攻医週間研修スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	外来業務・ リエゾン	病棟業務	外来業務・ リエゾン	病棟業務	月 1 回 日直・当直 (指定オンコール有)
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	
		医局カンファレンス・ 医局会				
			当直 (指定 医オンコール有)			

※上記は一例であり、希望によって曜日の変更調整は柔軟に対応可能

宮里病院 年間計画

4 月	
5 月	院内学術研究会、認知症の人と家族の会
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	認知症の人と家族の会
8 月	
9 月	認知症の人と家族の会
1 0 月	
1 1 月	認知症の人と家族の会
1 2 月	
1 月	認知症の人と家族の会
2 月	沖縄精神神経学会総会
3 月	認知症の人と家族の会

県立宮古病院

年間計画

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経総会への参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	九州精神神経学会等への参加、
12 月	沖縄県 DPAT 研修会
1 月	
2 月	沖縄精神神経学会への参加、発表
3 月	

週間計画

	午前	午後
月	病棟診療	スタッフカンファ
火	訪問診療	病棟診療
水	病棟診療	外来診療
木	病棟業務	訪問診療
金	外来診療	地域関係者会議

外来、病棟業務割り当ては、モデルケース。

平日時間外及び週末は、約 8 コマのオンコール対応業務あり。指定医師のバックアップ体制あり。

杏林大学医学部付属病院

年間スケジュール

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年度研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	日本不安症学会への参加
6月	教室主催研究会への参加 電気けいれん療法講習会への参加 日本精神神経学会への参加
7月	日本うつ病学会への参加 日本産業精神保健学会への参加（任意） 日本睡眠学会への参加（任意） 東京精神医学会への参加・演題発表
8月	
9月	EGUIDE 講習会への参加 教室主催研究会への参加
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
11月	東京精神医学会への参加・演題発表 日本臨床精神神経薬理学会・日本神経精神薬理学会への参加 日本認知療法・認知行動療法学会への参加（任意） 日本総合病院精神医学会への参加（任意）
12月	
1月	研修プログラム委員会の開催
2月	学内外研究会での発表
3月	東京精神医学会への参加・演題発表 日本統合失調症学会への参加（任意） 日本社会精神医学会への参加（任意） 1・2・3年目専攻医研修報告書作成 研修プログラム評価報告書作成

	その他、適宜院内や医師会の開催する医療安全や感染対策、医療倫理などに関する研修会・講習会に参加する。
--	--

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務 外来初診訓練	病棟業務 OT カンファ 入院 OT 研修 クロザピン外来見学	新入院・問題例カンファ 行動制限最小化委員会 教授回診（隔週） 病棟業務	病棟業務 外来初診訓練 クロザピン外来見学	病棟業務 外来初診訓練 入院 OT 研修	病棟業務 睡眠外来見学 リエゾン
午後	病棟業務 集団精神療法 リエゾン	病棟業務 転倒防止カンファ リエゾン	診療プロセスカンファ リエゾンカンファ ケースカンファ（隔週） 抄読会（隔週） 病棟業務	病棟業務 緩和ケア 外来 OT 研修 リエゾン	病棟業務 CBT 見学 睡眠外来見学 自殺予防カンファ	病棟業務 小クルズス IPT 見学
夕方	チームカンファ	チームカンファ	医局会 若手医師向けクルズス	チームカンファ	チームカンファ	

※原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

岩手医科大学 専攻医研修プログラム

①岩手医科大学附属病院

年間計画

4 月	オリエンテーション、新人研修（初年度）、歓迎会（初年度）
5 月	新人研修（初年度）
6 月	岩手県精神医会参加 日本精神神経学会参加
7 月	北上川コムポート川下り
8 月	精神科サマーキャンプ
9 月	
10 月	東北精神神経学会参加
11 月	同門会での症例報告（初年度）
12 月	忘年会
1 月	
2 月	岩手県精神医会参加
3 月	納会

初年度の専攻医に共通して参加を推奨するものを記載しましたが、
興味領域や研修内容、本人の希望によって、随時各学会・研修会への参加が可能です。

週間計画

	月	火	水	木	金
8 : 00～8 : 30	沿岸病院出張				抄読会
8 : 30～12 : 00		予診 病棟業務	m-ECT 病棟業務	外来業務	
13 : 00～17 : 00		教授回診 レクチャー	病棟業務	病棟業務	予診

17：30～		医局勉強会など	グループ回診		医局会 医局勉強会など
--------	--	---------	--------	--	----------------

【教授回診】

毎週**火曜**午後に行う。患者毎に、主治医又は主治医グループの一員が、診断、状態像、経過、治療方針などについてコンパクトにプレゼンテーションし、教授と共に検討を行う。

【グループ回診】

毎週**水曜**日に行う。各自の受け持ち患者全例について診断や治療方針を確認するとともに評価を行う。

【症例検討会】

月1回定期開催の他、必要時臨時開催。難症例、インシデント・アクシデント症例、多患者間の問題を含む症例など、全体での討議が必要または有効な症例について検討する。

【病棟カンファランス】

月1回定期開催。全看護師と医師、PSW が参加して、患者の状況や方針について情報共有し、それぞれの立場からの意見を擦り合わせる。

【抄読会】

毎週金曜朝に行う。医局員、心理室、医療相談室が参加し、持ち回りで海外の original article を、PPT を使ってプレゼンし、最新知見を共有するとともに、論文を評価、批判する力、論文をもとに討論する力を養う。

【医局会】

第一金曜日終業後に定期開催の他、必要時臨時開催。院内・学内・学外の事項の通達や情報共有、必要事項の討議を行う。

【医局掲示板】

医局員がPC やモバイルツールからアクセスできる掲示板。セキュリティは保たれている。スケジュール、学内行事、各種連絡事項が出張先でも自宅でも迅速に把握できる。自宅学習用教材を備える。

②岩手県立南光病院

年間計画

4 月	オリエンテーション、両磐精神医療連絡会
5 月	
6 月	日本精神神経学会、東北児童青年精神医学会
7 月	両磐精神医療連絡会
8 月	全国自治体病院協議会精神科特別部会、岩手県立病院医学会、一関夏祭り
9 月	
10 月	東北精神神経学会、両磐精神医療連絡会
11 月	
12 月	
1 月	両磐精神医療連絡会、東北自治体病院精神科懇話会
2 月	
3 月	

週間スケジュール

	8:00-8:30	8:45-12:15	13:15-17:15	17:15-17:30	17:30-18:30
月	カンファレンス（新患紹介等）	主に外来診療	主に病棟診療	多職種カンファレンス	
火	医局カンファレンス	主に外来診療	主に病棟診療 児童外来	多職種カンファレンス	
水	医局カンファレンス	外来診療、アルコール外来	主に病棟診療	多職種カンファレンス	医局会（月 1 回） 医局勉強会（月 1-2 回）
木	医局カンファレンス	主に外来診療	主に病棟診療 児童外来 精神保健相談 児童相談所 高田こころの相談室	多職種カンファレンス	
金	医局カンファレンス	主に外来診療 児童外来	主に病棟診療	多職種カンファレンス	

③岩手県立一戸病院

年間スケジュール

4 月	新入医局員・研修医オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会、岩手県精神医会
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	日本精神科医学会学術大会、精神医学セミナー
11 月	
12 月	忘年会
1 月	
2 月	岩手県精神医会
3 月	

週間スケジュール

	午前	午後
月	脳波判読、外来診療	病棟診療、アルコールミーティング
火	外来診療	病棟診療
水	病棟診療	診療応援（他県立病院外来診療）
木	病棟診療	地域精神保健活動
金	外来診療	病棟診療

④ 観山荘病院

年間スケジュール

4 月	研修医オリエンテーション
5 月	研修医オリエンテーション (5月開始の研修医)
6 月	岩手県精神科医会、C V P P P (包括的棒暴力防止プログラム at 花巻病院) : 希望者のみ 日本精神神経学会学術総会
7 月	職員との親睦行事 : 北上川ゴムボート川下り大会 & 焼肉 打上げ
8 月	日本総合病院精神医学会 ECT ネットワーク 研究会 (at 医科歯科大)
9 月	
10 月	日本精神科救急学会学術総会、岩手県精神科医会、岩手県精神保健福祉大会 参加、観山祭 (デイケアを中心に、他作業所や地域との交流を図る)
11 月	日本精神科医学会学術大会 (演題発表) 岩手県精神障害者バレーボール大会 (デイケアメンバーに1日同行)
12 月	
1 月	
2 月	研修プログラム管理委員会参加、日本精神神経学会 ECT 検討委員会主催 ECT 研修会
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30～ 9:00	急性期治療病棟 多職種ミーティング		2・3病棟 ミーティング		急性期治療病棟 多職種ミーティング
9:00～12:30	病棟診療	外来診療	病棟診療	外来診療	病棟診療
《 12:00～12:40 》		* 《行動制限最小化委員会》		* 《症例検討会》	* 《薬・説明会》 * 《医局会》
12:30～13:30	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:30～17:00	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
《14:00～14:45》	《 mECT 》		《 mECT 》		《 mECT 》
《15:00～16:00》	* 《研修医クルズス-A》		* 《研修医クルズス-B》		* 《地域生活支援部会議》
《17:10～17:45》		* 《Web講演会》			

- * 研修医クルズスーA：月1度のペース。精神科医でも理解しておきたい胸部X-P、ECG判読の基礎とコツ他（担当：呼吸器外科 小泉 潔 Dr.）
- * 研修医クルズスーB：月2度のペース。精神医学全般の中で、研修医が今、悩んでいることを中心に、各回、テーマを決めて進めて行く。（小泉幸子 Dr.、廣瀬 Dr.、小泉公平 Dr. 他）
- * 薬・説明会と医局会：第1 or 第2(金)の12時10分より開始。説明会后、引き続き12時30分から医局会が開始される。
- * 症例検討会：月1度のペース。第3(木)の12時10分から開始。
- * 行動制限最小化委員会：第2（火）の12時から開始。
- * 地域生活支援部会議：第2(金)の15時から開始。外来診療・デイケア・訪問看護から、1ヶ月間の実績や問題点・注意患者の報告や情報の共有化、対策など。
- * Web講演会：随時行うが、(火)の17時過ぎに行う事が多い。
- * その他：必要に応じて、随時、医療保護入院者の退院支援委員会を開き、行政・家族・支援員（ケアマネ・後見人他）・主治医・PSW・患者が一堂に会して協議して行く。

⑤ 平和台病院

年間スケジュール

4 月	新入医局員・研修医オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会、岩手県精神医会
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	日本精神科医学会学術大会、精神医学セミナー
11 月	
12 月	忘年会
1 月	
2 月	岩手県精神医会
3 月	

週間計画

	8:00-8:30	8:30-12:00	12:00-13:00	13:00-17:00	17:30-
月	入退院事例紹介	主に外来診療	医薬品説明会（随時）	主に病棟診療	
火		主に外来診療		主に病棟診療	医局勉強会（月 1-2 回）
水		主に外来診療		主に病棟診療	
木		主に外来診療		主に病棟診療	
金	医局カンファレンス	主に外来診療		主に病棟診療	各種勉強会参加（随時）

⑥ 未来の風せいわ病院

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	県精神科医会参加、県精神保健福祉大会参加
11 月	地方精神神経学会参加・演題発表
12 月	日本精神科救急学会参加
1 月	
2 月	研修プログラム管理委員会参加
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

週間スケジュール

	9:00-9:30	8:30-12:00	11:00-12:00	12:30-13:00	17:30-16:30	16:30-17:00
月	朝カンファ	病棟診療	パスカンファ（A5 病棟）	医局会	病棟診療	夕方カンファ
火		再来診療			病棟診療	夕方カンファ
水	入院カンファ	病棟診療			病棟診療	夕方カンファ
木		再来診療			病棟診療	夕方カンファ
金		新患診療	パスカンファ（A3/4 病棟）		第 1/3/5 週：病棟診察 第 2 週：婦人相談所 第 4 週：県警少年サポートセンター	夕方カンファ

⑦ 宮古山口病院

年間スケジュール

4月	新人研修、オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会、CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修、岩手県精神医会
7月	宮古夏まつり
8月	
9月	
10月	日本精神科医学会学術大会、精神医学セミナー
11月	
12月	忘年会
1月	
2月	岩手県精神医会
3月	納会

その他各種講習会や研修会、学会への参加希望の際はご相談に応じます。

週間計画

	8:00-8:30	8:30-12:00	13:00-17:00	17:30-
月	入退院カンファレンス	外来診療	病棟診療	退院支援カンファレンス 各種勉強会参加（随時）
火		病棟診療	外来診療	
水		外来診療	病棟診療	
木		外来診療	病棟診療	
金	症例検討会	外来診療	病棟診療	

⑧ 北リアス病院

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会、岩手県精神医会
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	精神医学セミナー
11 月	
12 月	忘年会
1 月	
2 月	岩手県精神医会
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

週間計画

	8:00-8:30	8:30-12:00	12:00-13:00	13:00-17:00	17:30-
月	朝カンファ	外来診療	症例カンファ	病棟診療/デイケア	
火		外来診療		病棟診療/デイケア	医薬品説明会（不定期）
水		外来診療		病棟診療/デイケア	
木		外来診療		病棟診療/デイケア	医局会
金		外来診療		病棟診療/デイケア	各種勉強会参加（随時）

⑨ 三陸病院

年間スケジュール

4 月	新人研修、オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会、岩手県精神医会
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	日本精神科医学会学術大会
11 月	
12 月	忘年会
1 月	
2 月	岩手県精神医会
3 月	納会

その他各種講習会や研修会、学会への参加希望の際はご相談に応じます。

週間計画

	8:00-8:30	8:30-12:00	13:00-17:00	17:30-
月	入退院カンファレンス	外来診療	病棟診療	退院支援カンファレンス 各種勉強会参加（随時）
火	m-ECT	病棟診療	外来診療	
水		外来診療	病棟診療	
木		外来診療	病棟診療	
金	症例検討会/回診	外来診療	病棟診療	

週間スケジュール（一般精神科）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	多職種による病棟カンファレンス	多職種による病棟カンファレンス	多職種による病棟カンファレンス	多職種による病棟カンファレンス	多職種による病棟カンファレンス
	病棟・外来診察	病棟・外来診察	病棟・外来診察	病棟・外来診察	病棟・外来診察
午後		部長回診(隔週)	外来予診・部長診陪席	保健所等訪問診療	
		抄読会(12:00～13:00)			
	病棟・外来診察	病棟・外来診察	病棟・外来診察(病棟集団 CBT)	病棟・外来診察	病棟・外来診察
	気分障害、不安障害勉強会	病棟ケースカンファレンス	部長回診(隔週)	保健所等訪問診療	光トポ判読会
		精神科医局症例検討会(月 1 回)	統合失調症研究会(月 1 回)		統計セミナー(月 1 回)

	てんかんカンファ レンス (精神・小児神経・ 脳外科合同)	総合医局症例検 討会(2 カ月に 1 回) 精神医学セミナ ー(月 1 回) 臨床病理検討会 (月 1 回) ブレインカツティ ング(月 1 回)		てんかんカンファ レンス (精神・小児神経・ 脳外科合同)	
--	--	---	--	--	--

週間スケジュール（医療観察法）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟回診 病棟診療（*1）	病棟回診 病棟診療（*1）	病棟回診 病棟診療（*1）	病棟回診 病棟・外来診療（*1）	病棟回診 患者ミーティング
午後	医療観察法病棟 担当医師会議 治療評価会議（*2）	病棟診療（*1） 倫理会議（月 2 回）（*3）	病棟診療（*1） 運営会議（月 1 回）（*4）	病棟診療（*1） 保健所等訪問診療	病棟診療（*1）
		医局事例検討会（月 1 回）	精神鑑定事例研究会（月 1 回）		

*1 病棟診療の内容

- ・多職種チーム会議・面接の実施（医師・看護師・作業療法士・心理士・精神保健福祉士の 5 職種による各患者の担当チームの会議・チームと患者を交えた面接）
- ・CPA 会議への参加（患者及び家族・患者の担当多職種チーム・患者の帰住先地域の支援関係者による会議）
- ・医療観察法病棟内で実施している治療プログラムへの参加（疾病教育、物質乱用防止教育、内省プログラム、SST、NEAR など）

＊2 全入院患者について前週の治療経過・社会復帰調整状況・外出泊の可否などを病棟関係者全体で評価、検討する。

＊3 非同意治療、身体拘束、m-ECT・クロザピン導入などの可否について、2名の外部委員とともに評価、検討する。

＊4 病院幹部に対し前月の治療評価会議・入退院状況を報告し、入院継続・退院許可など裁判所への提出書類への承認を得たり、治療ステージ変更・外出泊などの可否について検討したりする。

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 1 年目専攻医研修開始 2・3 年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 医療観察法関連職種研修参加 司法精神医学会参加（任意）
7 月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8 月	精神医学サマーセミナー 日本うつ病学会学術集会参加（任意）
9 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出

	医療観察法指定入院医療機関 机上研修 日本生物学的精神医学会年会(任意) 東京精神医学会学術集会参加(任意)
10 月	日本てんかん学会学術総会参加(任意) 日本臨床精神神経薬理学会(任意)
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加(任意) 日本臨床神経学会学術総会参加(任意)
12 月	医療観察法上級研修会参加
1 月	
2 月	
3 月	1・2・3 年目専攻医研修報告書作成

専攻医まとめの会

院内研究発表会

東京精神医学会学術集会参加(任意)

日本臨床精神神経薬理学会(任意)

一般財団法人新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8 : 30-9 : 00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9 : 00-12 : 00	外来初診	デイ・ケア	外来再診	リエゾン/ 訪問看護	外来初診
13 : 00-17 : 30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	回診・ カンファレンス	病棟業務